

インダストリアル・パークの取組

アゼルバイジャン政府は、輸入代替・輸出促進を目的とする製造業の育成・誘致のため、アゼルバイジャン国内に5つのインダストリアル・パークを設立しました。

今般、タリホフ・スムガイト化学インダストリアル・パーク(SCIP)社長から、インダストリアル・パークの活動や日本企業への期待について伺いました。

1 インダストリアル・パークの概要

「2011年に設立されたスムガイト(化学)に続き、ミンゲチェビル(繊維)、ピララヒ(製薬)、ガラダグ(造船)、バラハヌ(廃棄物発電等エコパーク)が、業種毎の集積拠点として順次整備されました。」(注:ミンゲチェビルはバクーから西240km、その他4地域はバクー近郊に位置。)

「SCIP社は、バラハヌ以外の4パークの運営を担っています。各インダストリアル・パークとも、電気・ガス・水道・インターネット等のインフラが完備されており、入居企業には、法人税・固定資産税・輸入資機材の付加価値税の10年間の免税、関税の7年間の免税等の優遇措置が提供されるほか、国営機関からの出資や低利融資が用意されています。」

2 国内最大のスムガイト化学インダストリアル・パークについて

「スムガイト化学インダストリアル・パークは総面積510haの80%が分譲され、総投資額は38億ドル、現在15工場が稼働しています。またアゼルバイジャンの非石油ガス分野の生産の20%を占め、製品は30か国以上に輸出されています。なお、スムガイトは旧ソ連時代からインダストリアル・パークとして開発されたため、労働力は熟練工を含め豊富、現在も人材育成に注力し、近々団地内に技術専門校を開設する計画です。」

3 日本企業への期待

「スムガイトを始め各インダストリアル・パークには、国内企業のほか、外国企業の投資も誘致され、これまで、建設資材、造船、製薬等の分野への外国企業投資があります。日本企業による投資はまだありませんが、一部の工場では日本製設備が使用されており、生産品の一部が日本に輸出されています。日本企業のインダストリアル・パークへの進出を歓迎します。」

【スムガイト化学インダストリアル・パーク社へのリンクはこちら】<http://scip.az/en>

(以上)